

FRUITFUL DDM 2021

今こそ、1st Party データを活用する時！
「使える」データプラットフォームの始め方

DDM-4
15:30-16:10

本日のアジェンダ

- 第1幕 - ADKにおけるデータプラットフォーム関連の取り組み -
 - 登壇者紹介
 - データプラットフォームとは？
 - BIとは？
 - ADKの取り組みご紹介
- 第2幕 - JBS×ADK パネルディスカッション -
 - 登壇者紹介
 - JBS様会社紹介
 - テーマ別パネルディスカッション

第1幕

ADKにおけるデータプラットフォーム 関連の取り組み

登壇者紹介(ADK)



DDM戦略デザインセンター
第1戦略デザインユニット 第1アーキテクトグループ

正木 洋介(Yosuke Masaki)

入社以降デジタルメディア部門からメディアプランニング部門でシステム構築やレポート作成を担当。

2015年からTreasure dataを利用したサービスを開発、2018年にADK社内にてDMPの開発を担当。

現在はお客様案件にて社内データ分析基盤の開発やお客様環境での可視化環境の構築支援を担当。

また東急エージェンシー、JR東日本企画との合併会社、Data chemistryで基盤開発チームのリーダーとして、DMP開発を行う。

登壇者紹介(ADK)



DDM戦略デザインセンター
第1戦略デザインユニット 第1アーキテクトグループ

安西 麻里子 (Mariko Anzai)

大手広告代理店グループにて、内部向けDMP・分析基盤ディレクション・ダッシュボード開発やクライアント様向けの分析環境構築業務に従事。2017年5月よりラグジュアリー路線のアパレルECサイトの立ち上げに参画。ECサイトの開発ディレクション、デジタルマーケティング全般、MA/DMP導入、データ分析業務を担当。

2019年5月より現職。2020年よりDDM戦略デザインセンターにてクライアント様向けダッシュボード開発や分析環境構築、MA/DMP導入コンサルティング業務などを担当。また、兼務でADKを含む広告代理店三社のJV「Data Chemistry」にてテレビのデータを用いたDMPの開発ディレクション業務や可視化業務に従事。

データプラットフォームとは？

- データの収集、蓄積・統合、分析を行う為の基盤を「データプラットフォーム」や、「データ分析基盤」と呼んでいる。
- DMP・CDPのような1ツールで全ての機能を内包しているものを使用するケースや、DWH・データレイクやストレージ、BIツールを組み合わせ実装するケースなど開発方法は多種多様。
- 使用目的やニーズに合わせて、最適な環境を検討し、構築を行う。



データプラットフォームが必要な理由

データプラットフォームを入れずにデータの分析・活用を行うことも不可能ではないが、より高度な分析・活用を行う為にはデータプラットフォームの導入が必須。

① データ活用にはデータ整備が必須

データ分析・活用を効率よく実施する為には、社内のデータを一か所に集めた上でデータを扱えるように加工する必要がある。

② ビッグデータを扱う為の仕組みが必要

ローカルで扱えるデータの容量には限界がある為、複雑な分析や集計を行おうとすればするほどビッグデータを扱えるようなツールや基盤が必要となる。

③ 施策活用にはデータ連携自動化が必須

データの広告活用や、MA連携を効率よく実施する為には、データ連携自動化が必須。手動での運用も可能だが、データの最新化スピードが遅くなってしまう。

データプラットフォームの作り方

活用方法や、保持しているデータの整理など要件定義を最初に実施する。
要件定義をもとに必要なツールの構築を実施し、データの活用・施策実施が出来るような環境を整える。

要件定義 全体設計・ツール選定



目的・要件に合わせて全体設計とツールの選定を行う。

データ基盤構築



データ基盤の構築を行う。
データの整理から構築、運用まで対応する。

BIツール導入 ダッシュボード作成



BIツールの導入およびダッシュボード作成を行う。
社内でツールを活用できるよう教育・活用推進も実施。

データ分析・活用



蓄積したデータの分析やMA・CRMツールを用いた施策への活用を行う。

各種データプラットフォームのPros/Cons



				
代表的なツール	S3、Redshift、DynamoDB など	BigQuery、Cloud Storage など	Blob Storage、Synapse Analytics など	Treasure Data CDP
コスト 体型	従量課金	従量課金	従量課金	固定金額
特徴	圧倒的なシェアで業界の標準となっておりベンダー各社に十分知見がある	Googleのツールとの連携があり、マーケティングデータ基盤としては構築が容易	エンタープライズでの利用ケースが多く、企業内でのユーザー権限との統合等の要件に対応ができる	多くのデータソースとのコネクタがあり、手軽にCDPの構築が可能。費用も固定なので予算が立てやすく始めやすい

各種データプラットフォームのPro/ConとADKの取り組み



		 Google Cloud Platform	 Microsoft Azure	 TREASURE DATA
代表的な ツール				
コスト 体型	社内のデータ 基盤の一部とし てRedshiftを 使用	資格保有者所属 BigQueryの 活用案件多数	資格保有者所属 Azureの 活用案件多数 (この後のパネルディスカッ ションで詳細ご紹介)	シルバーパートナー 認定 資格保有者多数 活用案件多数 社内の基盤としても 使用
特徴				

各種データプラットフォームのPro/ConとADKの取り組み



aws



Microsoft



TREASURE

記載しているプラットフォーム以外の知見もございます。

御社に最適なプラットフォームを
一緒に検討させていただきます！

特徴

ジョブで詳細ご紹介

社内の基盤として
使用

ADKの取り組みご紹介 -Treasure Dataとのパートナーシップ-



データプラットフォーム領域の取り組みの一環として、Treasure Dataのパートナープログラム「Arm Treasure Data Partner Certification Program」に参画。

Treasure DataのCDP活用を通じてクライアントの課題を解決できるよう、技術支援や営業支援、技術者のトレーニング支援などの総合的なサポートを受けられるような体制を構築。



NEWS

2020.6.2

Article Title

ADKマーケティング・ソリューションズ、アームトレジャーデータの「Arm Treasure Data Partner Certification Program」に参画 — マスターパートナーとして、顧客データを取り扱うマーケティングの高度化を加速 —

#事業・サービス

出典 : <https://www.adk.jp/news/186/>

ADKの取り組みご紹介 -プリンシプル社との資本業務提携-



データプラットフォーム領域およびデータドリブンマーケティング領域の取り組みの一環として、株式会社プリンシプルと資本業務提携を締結。

データプラットフォームの構築、ダッシュボードの導入、データ分析業務など、実際に案件を実施する上で必要なリソースを強化。案件の細部まで丁寧に対応できるような体制を構築。



出典 : <https://www.adk.jp/news/745/>

第2幕 JBS×ADK パネルディスカッション

登壇者紹介(JBS)



日本ビジネスシステムズ
高濱 隆樹
(Ryuki Takahama)



日本ビジネスシステムズ
鵜澤 佑太
(Yuta Uzawa)

会社概要(JBS)

DATA

(2021年 2月 1日 現在)

名称	日本ビジネスシステムズ株式会社		
本社	東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー16F		
設立	1990年10月4日		
資本金	5億3,963万円		
代表者	代表取締役社長 牧田幸弘		
売上高	683億円 (2020年9月期)		
社員数	2,250名	関係会社	【国内】
事業拠点	北海道事業所	株式会社日テレITプロデュース	
	西日本事業所	rhipe Japan株式会社	
	中部事業所	一般社団法人 社会システムデザインセンター	
	九州事業所	【海外】	
	沖縄事業所	JBS 上海	
		JBS USA	JBS 香港
		JBS Mexico	JBS シンガポール



JBS Japan Business Systems

Copyright (C) Japan Business Systems, Inc.

会社概要 6

ディスカッションテーマ①



データプラットフォーム構築の進め方 -案件概要とともにご紹介-

ディスカッションテーマ①：案件概要（某出版社様）

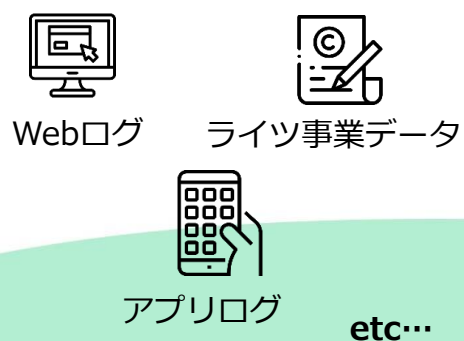
社内に保持されているデータをMicrosoft Azureで構築したデータ基盤に格納し、BIツール PowerBIへ連携して可視化。今後、基盤に格納したデータを様々な分析に活用予定。

① 社内保持データの連携

(搭載中)



(搭載予定)

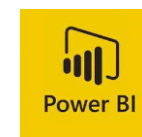
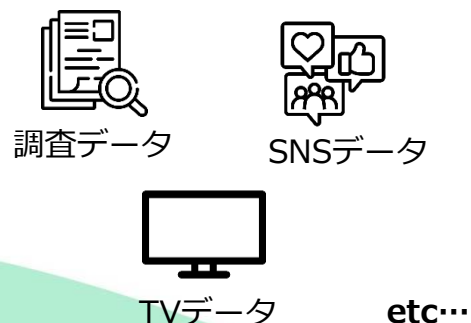


データ基盤

Azure



② ADK保有データの連携



データ可視化
ダッシュボード



③ 分析・データ活用



ディスカッションテーマ①：役割分担



PM業務

- 要件定義、ツール選定
- クライアント様との調整
- スケジュール管理
- 納品物レビュー
- 社内での展開方法検討など

ダッシュボードデザイン

- ダッシュボード要件整理
- ダッシュボードデザイン作成
- ドキュメント作成など

JBS Japan Business Systems, Inc.

基盤開発業務

- Azure基盤構築
- データ確認・検証
- ドキュメント作成
- テスト実施
- 障害検知・対応など

ダッシュボード開発業務

- PowerBIを使ったダッシュボード構築
- PowerBIへのデータ搭載など

ディスカッションテーマ②



ベンダー側から見て代理店と、
代理店側から見てベンダーと組むメリットは？

ディスカッションテーマ③



今後の案件の展開と JBS×ADKの取り組みについて



ご清聴ありがとうございました

Thanks you !